

常なる磐


つねなる いわ season II

令和3年7月20日(火)

WEB 公開号

◇ ひがしっ子スローガン 2021

1 学期終業式の話は「ひがしっ子スローガン」。



こうくん
校訓

求めて はげむ

もくひょう ちから かぎ どりょく
目標をもち 力の限り努力すること

2021 ひがしっ子スローガン

ひ

やさ

光る優しさ ひがしっ子

が

がんば つづ

頑張り続ける ひがしっ子

し

しんしん ただ きた

心身を正しく鍛える ひがしっ子

スローガン。つまり合言葉。ただ、枕詞に「ひがしっ子」を付した。子供たちが流行り言葉を口ずさむように、子供たちの口から自然に発せられるようになること、日常の目標になることが願いだ。よって、スローガン3文は、常々伝え続けてきた「あたりまえのことがあたりまえにできる」と置き換えてもよい。

中学校なら、まずは生徒に「スローガンのねらい」を説き、生徒の心に揺さぶりをかける。必要感が高まり、やりたいという空気が醸成されたところを見計らい、生徒に投げかける。個で考えさせ、その後、全体に汲み上げて、絞り込む中で練り上げる。学級集団ならばこの過程でよいが、学年、学校と母体が大きくなれば、その都度「練り上げ」の機会をもつ。いいものが出来上がるのはもちろんのこと、様々な過程を経る中で生徒の心情が醸成され、定着へとつながる。

しかし、小学校はそうともいかない。そこで教師側が考えるのだが、今回は本校の教職員に働きかけて募集することにした。条件は頭文字の「**ひがし**」。

これが大正解。やはり、いつも子供たちと接する担任陣は流石だ。子供たちに対する「思い」や「願い」の大きさが、簡潔な短文からしっかりくみ取れる。

①【光る優しさ ひがしっ子】

「優しさ」が【光る】とは、粋である。まるで俳句の一節のよう。「優しさ」の最上級・「優しさ」の極みを短文で見事に表現している。

②【頑張り続ける ひがしっ子】

これは「常磐ひがしっ子120年宣言」に通じる。関連性があることで子供にも浸透する。「続ける」つまり「継続」の大切さに気付かせてくれる。

③【心身を正しく鍛える ひがしっ子】

校歌の一節との連携はお見事である。しかも、これまで卒業式や入学式の式辞に織り込んできた自分が最も大切にしてきた一節だ。

【正しく鍛える身と心】を倒置させて「心身」と置き換えることで、難しい「し」から始まる短文を巧みに仕上げている。

完成したスローガンを校歌と照らし合わせる。すると、その関連性の深さに驚かされた。校歌の凝縮形が「スローガン」と言ってもよいほどだ。

三		二		一		常磐東小学校校歌(常磐東小学校の歌)																			
山鳩群れ飛ぶ	常磐東の学び舎は	仰げよ明るい	わたしも	日本の明日を	担う夢		正しく鍛える	身と心	常磐東の学び舎に	腕組む影さえ	輝いて	せせらぎ	続く	青木川	みんなの胸に	ふれながら	喜びあふれて	鐘が鳴る	常磐東の学び舎に	歌えよ心も	晴れ晴れと	朝日が昇る	山の空	みどりを競う	峰染めて
風の中		虹の橋	ほくも		もっている																				
◇	ひかる	やさしさ				ひがしっ子																			
◆	がんばりつづける					ひがしっ子																			
◇	しんしん	を	ただしく	きたえる				ひがしっ子																	

終業式の式辞では、2枚の資料で言葉を説いた。締めくくりは、『オリンピックを家族で見よう』。心身を正しく鍛えたアスリートから、何かを感じ取ってほしい。